

磐石城民論

発行日毎月廿日
定価 一月十銭
半年五十銭
一年九十銭
廣告料 一行五十銭
場所指定 十銭増
発行所 磐石民論社
印刷所 酒谷四郎
編輯人 酒谷四郎
福島縣石城郡平町杉平
二十番地

學 世を擧げての 緊縮に直面して

浪江校長 柳沼徳實
新卒業生諸子に與ふ

親父の懐工合を知らぬもの、鏘々と聲起る
これを道樂息子といふ、諸
子は今や卒業てふ榮冠を贏
ち得日本一の孝行息子とな
つて將に縣下各町村に籍入
せんとせられてゐる。日本
一の孝行息子が將來共孝行
息子であり得るためには則
村たる親父の懐工合を忘れ
てはならぬ。

今や我農村は疲れてゐる不
景氣深刻、其の日の暮にす
ら泣いてゐる現況である。

宜なる哉、茲に二大國難打
實によくその向ふ處を教へ
開の烽火の上げられしこと
や、縮時代の出現も亦當
然といはねばならぬ

實にこれ國民反省の秋であ
る。官公吏も、政治家も、
實業家も、學生も、教育家
も藝術家も眠れる魂を喚び
醒まし一大緊縮に精進すべ
き時代である

而してこの緊縮教育界、緊
縮農村への興入準備として
まづ何よりも心の準備が肝
要であることはいふまでも
ない

北原白秋氏の緊縮の歌に二、待遇に於て諸君の意を

一、鏘々と聲起る
鏘々と打て打て
鋼鐵の精神
日本は輝く時代を鍛へよ
世紀は新し雲は急なり
緊縮せよ 緊縮せよ
鏘々と聲起る
鏘々と聲起る

二、肅々と聲起る
肅々と聲起る
思ひよ止しき日夜の營み
日本よ、輝く時代を
進めよ
富めるは驕れり
人は倦みたり
緊縮せよ 緊縮せよ
肅々と聲起る
肅々と聲起る

三、一學級兒童は多くは男
女合併、然も七十人、八
十人といふも少なくない
四、のみならず一般に極め
て出来がよくない、しか
し子を思ふ親の心に變り
はないから出来なければ
その罪は先生に來ると覺
悟せねばならぬ

五、更に農村の學校は諸君
に努力と忍従とを遠慮な
く強えし迫りもしてゐ
る、補習學校に 青年
訓練所に 男女青年團
の指導に 少年團の輔
導に 社會教育に村つ
き合ひに

六、而してこれ等に酬ゆる
せめてもの慰安日たる休
給日は必ずして廿一日と
定つて居ない、甚だしき
は奉任待遇で年俸になつ
てゐる處もあるといふ
七、更にあきれかへる一事
は無理解からか計算から
か賢明なのか盲目なのか
教師を商品扱にして「安
くてよい先生」を得たい
といふのがこれ農村民の
衷心の聲である様である
事實六十圓以上の教師の
賣口は少ないといふ現況
を知らねばならぬ。

梅は寒苦を経て清香を發すと叫んだその人の氣概を持
とか。この世事辛き縮の
つ時は縮何ぞ恐るゝに足
眞つ只中に雄々しく飛び
込む諸氏決して辟易して
ならぬ。金を焼けても潰し
ても金である。そして一
五圓の値段には變りはない
仍ち眞價ある教師になれば
よいのである、眞價ある教
師たるにはまたない試験の
好時代であり此の上もない
修驗場であるのだ。

世に無欲の大欲といふこと
がある、名利を離れ榮達を
超越して只管正しき日夜の
學舎、吉田松陰の松下村
塾、何れもそれは見すばら
しいものであつたことは諸
子のよく知る處である、我
に兒童とボールとを與へよ

可愛い一年坊主 病氣に罹るべからず

いよくお子さんの樂々傳染性皮膚病等の諸傳染
しい新入學の時にになりまし
病です之れ等は入學したた
た今まで遊んでばかりゐた
子供達が急に規則止しい學
校生活を始めるといふ事は
子供の心身に大きな影響を
取ぼすものですから入學當
時に於ては家庭の人々はそ
の實情をよく知つてゐて不
の様な衛生事項に充分氣を
つけて頂きたいものです

▲學校では
うがひをする事に習慣を
つけてほしいものです、次
には食物の事ですがこの頃
は非常に發育のい、時です
から食物の分量や質に注意
していただきます、また食
物の辯當は量に於いて不足
勝ちであるといふ事を考へ

て調理してほしいのです
第三には疲勞をさせない様
にする事です、即ち急に規
則正しい精神生活に入りま
すので入學當時の兒童には
たま／＼貧血頭痛めまひ等
▲起し易い
ものですからおさらひ等を
やたらに強ひる様な事なく

之れから
風邪を引く
機会も多く
せきも出る
ことになり
ます、せ
きの澤山出
る時は何よりも安静が必
要です、せきと一諸に熱の
出る場合絶対に安静にして
なければなりません、せ
きにうがひは大切な手當で
これはオキシフルを十倍に
薄めた液を用ひます、また
こんな時には室内には常に
濕氣を保たせる爲に水蒸氣
をた、せき、弱い火に鐵
瓶や藥罐をかけて蓋を取つ
て置くのもよいでせう。ま
たせきには吸入も必要で重
曹水や硼酸水の水蒸氣吸入
を行ふと、せきは大變軽く
なります。またせきが出る
のと一諸に胸や喉の痛む時
には温濕布かまたはメント
ラエキホシ等で濕布を致し
ます、内服薬としてはグラ
ビン、プロチン、フスタギ
ン、フアトシン、エバニン
等種々ありますが近來最も
よくきくと好評を博して專
門家を始め一般に使用され

氣分を轉換させ日曜日等に
は郊外につれて行つたり自
由な遊びをさせたりする事
が必要で、それから早寝
をさせて朝自然にひとり
醒める様な習慣をつける事
に常に身の廻りを清潔にさ
せる事の注意も忘れてはな
りません

常習便秘と
養生手當
一、牛乳、果物、パン、馬
鈴薯、甘藷等すべて野菜
をなるべく多く食べる事
一、毎朝起床時に水を「コ
ップ」に一杯飲む事
一、石鹼水又はリスリン灌
腸をして排便する事
一、毎朝出ても出な、とも
便所へ行く習慣をつける
事
一、食養生と運動が最も必
要です通じ易い食物を食
し盛んに運動が労働して
腹を擦り腸が丈夫になれ
ば必ず使通がよくなりま
す、運動の出来ない事情
のある人は必ず腹をすい
る事に重きを置いて御覽
なさい、元來便秘は病氣
と云ふ程のものではない
から別して心配は不必要
なものです

▲起し易い
ものですからおさらひ等を
やたらに強ひる様な事なく

之れから
風邪を引く
機会も多く
せきも出る
ことになり
ます、せ
きの澤山出
る時は何よりも安静が必
要です、せきと一諸に熱の
出る場合絶対に安静にして
なければなりません、せ
きにうがひは大切な手當で
これはオキシフルを十倍に
薄めた液を用ひます、また
こんな時には室内には常に
濕氣を保たせる爲に水蒸氣
をた、せき、弱い火に鐵
瓶や藥罐をかけて蓋を取つ
て置くのもよいでせう。ま
たせきには吸入も必要で重
曹水や硼酸水の水蒸氣吸入
を行ふと、せきは大變軽く
なります。またせきが出る
のと一諸に胸や喉の痛む時
には温濕布かまたはメント
ラエキホシ等で濕布を致し
ます、内服薬としてはグラ
ビン、プロチン、フスタギ
ン、フアトシン、エバニン
等種々ありますが近來最も
よくきくと好評を博して專
門家を始め一般に使用され

文 藝

小なき詩人
松原あゆむ
暖い日の
長い郵路を
鈴屋が
チャルメラを吹いて
通つて行きます

×
其の後から
みすばらしい姿の
小さな女の子が
ついて行きます
此の子はもう半里も
かうしてついて來たので
指を食はへては居ますが
鈴を欲しがるのであり
ません
鈴屋の吹く
チャルメラ哀調の中に
亡き母を戀ふて
陶酔してゐる
小さな詩人です

▲ひとりぼち
一人ぼちの
私は
日がな一日
わけもなく
向ふの空を眺めては
熱い涙に
涙ぐむ
日がな一日
人知れず
熱い涙に
涙ぐむ
あゝ
亡き母の
戀しさに

東部電力株式會社

平營業所
所長 武田精一

石城郡町村長

合山崎名會社

電話一〇番

好間軌道株式會社

自動車部

尼子自動車部

第三區小學校長會

平町料理屋組合

耳鼻咽喉科 專門

氣管食道科 專門

病室完備自炊の便あり

大和田醫院

平町南町(電話一七〇番)

和洋銅鐵金物問屋

久釜屋商店

諸橋 守次

諸橋 元三郎

電話九番 一三九番

蒲鋒の御用は是非

製造 藤寅

店主 菊地寅次郎
平町一丁目 電話一四二番

高久病院

院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
平町田町 電話五二三番
內科 小兒科 外科 花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

浪江驛前

神田自動車部

電話二九番

御旅館御料理

石澤屋

浪江町停車場通

和料 御料理

新パリー

浪江町役場通

浪江驛前

安部甲午

電話一〇九番

耳鼻咽喉科 專門

山村醫院

山村基

春陽堂藥店

浪江町

双葉郡齒科醫院案内

石井齒科醫院

浪江齒科醫院

豐口齒科醫院

大野驛前

常盤齒科醫院

常盤清

長塚村

渡部齒科醫院

渡部智嘉子

土木建築請負業
田中組出張所

坪幸太郎

富岡町

秋田齒科醫院

富岡町

鳥肉は是非
大勉強の

鈴木鳥肉店

平町搔掛小路(電話六五四番)